

経営成績及び財政状態

1. 当連結会計年度の概況

(注)以下の増減の基準となる前連結会計年度の計数は、旧わかしお銀行を連結子会社とする旧三井住友銀行の平成14年3月期の計数であります。

(1) 損益

当連結会計年度は、引続き経営全般にわたる効率化と経営体質の強化に努めてきたことに加え、経費構造の改善にも積極的に取り組み、業務改革により収益力の強化を図ってきました。

一方で、株価低迷による株式関係損益の悪化等に加え、引続き不良債権処理を進めたことなどから、経常損失は4,675億円、特別損益等を勘案した当期純損失は4,293億円となりました。

尚、経常収益は前連結会計年度対比6.1%減の3兆5,499億円、経常費用は同7.9%減の4兆174億円となっております。

(2) 業容

預金は前連結会計年度末対比1兆9,899億円減少して6兆9,960億円となり、譲渡性預金は同1兆7,730億円減少して4兆8,890億円となりました。

一方、貸出金は、同2兆4,259億円減少し、6兆1,962億円となりました。

総資産は、同5兆6,103億円減少し、1兆2,394億円となりました。

(3) 純資産

純資産額につきましては、持株会社である株式会社三井住友フィナンシャルグループを通じて5,703億円の資本調達を実施いたしました。グループ再編に際し、三井住友カード株式会社・三井住友リース株式会社等の管理営業を株式会社三井住友フィナンシャルグループ宛に分割したこと、拡大したその他有価証券の含み損を合併に際し処理したこと、株式関係損益の悪化を主因とした当期純損失を計上したこと等の結果、前連結会計年度末対比7,700億円減少し、2兆1,425億円となりました。

(4) キャッシュ・フロー

当連結会計年度のキャッシュ・フローは、資金の運用・調達や貸出金・預金の増減等の「営業活動によるキャッシュ・フロー」が+5兆4,901億円、有価証券の取得・売却や動産不動産及びリース資産の取得・売却等の「投資活動によるキャッシュ・フロー」が4兆6,222億円、劣後調達等の「財務活動によるキャッシュ・フロー」が925億円となりました。

その結果、当連結会計年度末の現金及び現金同等物の残高は2兆8,959億円となりました。

(5) セグメント

事業の種類別では、銀行業、リース業、その他事業の内部取引消去前の総資産シェアは、銀行業が95(前連結会計年度比+2)%、リース業が0(同1)%、その他事業5(同1)%、同経常収益シェアが、銀行業が69(前連結会計年度比1)%、リース業が17(同+3)%、その他事業14(同2)%となりました。

また、所在地別の内部取引消去前の総資産シェアは、日本が90(前連結会計年度比+3)%、米州が6(同1)%、欧州、アジア・オセアニアは、各々2(同1)%、2(同1)%、同経常収益シェアは、日本が84(前連結会計年度比+10)%、米州が6(同5)%、欧州、アジア・オセアニアは、各々6(同2)%、4(同3)%となりました。

(6) 自己資本比率(国際統一基準)(速報値)

連結自己資本比率が10.38%、単体自己資本比率が10.49%となりました。